



## 会報 2019年10月号

日本ニュージーランド協会（関西）

創立1970年

New Zealand Society of Japan, Kansai

### Not once every four years, once in a lifetime

(RWC2019)

オリンピック・サッカーワールドカップと並び世界3大スポーツイベントのラグビーワールドカップが9月20日から始まっています。日本の活躍は勿論、ニュージーランドの優勝を祈りたいものです。

年内の例会は、下記の2件です。お繰り合わせのうえご参加いただきますようご案内いたします。



春の牧場風景（松沼清司）

#### 277回 柿狩り 11月16日(土) 五條 太津会員の柿農園

日本一の柿の産地で自然の恵みに感謝して秋を体験しましょう。

**\*昼食:各自ご持参ください。**

#### 278回 クリスマス 12月11日(水) 神戸倶楽部

美味しいお料理・マリンバ演奏・ビンゴゲーム・クイズ等多彩なプログラムを準備しています。

バザーへのご協力品をお願いします

事務局：〒550-0002

大阪市西区江戸堀1-23-26 西八千代ビル3階C

電話・FAX：(06) 6607-2112

<http://nzsocietykansai.com>

E-mail: [nzsjk@yahoo.co.jp](mailto:nzsjk@yahoo.co.jp)

## ■ 第277回例会ご案内(柿狩り)

台風なども心配ですが、今年も恒例の柿狩りを太津会員のご協力で開催します。柿はビタミンA・C、カリウム等が多く含まれる秋の果物です。美容・健康・老化予防などにも効果があるのは毎年参加されている皆さんが証明しています。しかし、食べ過ぎには注意し平均サイズで1日2個くらいが良いそうです。

ご家族・友人のご参加も歓迎します。(参加費同額)

- ・11月16日(土) 10時30分～16時頃
- ・集合：近鉄福神駅前 10時30分
- ・参加費：1500円 (子供同額)

### ・昼食：各自ご持参ください。

- ・定員：30名 締切 11月10日(土)  
お断りの場合のみご連絡します。
- ・申し込み：世話人の松元副会長へ。  
電話：090-1955-2566  
メール：[nm04034@kobe.zaq.jp](mailto:nm04034@kobe.zaq.jp)

\*交通手段もお知らせください。

急行 阿部野橋 9:20 発 福神 10:24 着  
特急 阿部野橋 9:10 発 福神 10:05 着

\*雨天中止、催行確認は当日7時以降にお問い合わせ下さい。

松元さん 上記に。

太津さん 090-3167-9607

## ■ 第278回例会ご案内(クリスマス)

今年も神戸倶楽部で開催します。美味しい食事・ビンゴゲーム・クイズ・バザー・プレゼント交換等の他マリンバの演奏もあります。神戸マリンバソサエティから小松加奈・山本葉菜子さんのお二人に来ていただきます。ご家族・友人をお誘いのうえご参加ください。

- ・12月11日(水)  
11時00分 受付・バザー開始  
11時30分 例会スタート  
14時00分 閉会

- ・神戸倶楽部 中央区北野町4-15-1  
トアロードの突き当り西側  
三宮から車で山側へ10分  
電話：078-241-2588  
会費：会員と同伴者 6500円  
キウイ 3000円  
小学生未満 2500円

- ・飲み物：各自払い
- ・合唱：ポカレカレアナ きよしこの夜
- ・プレゼント交換：1000円程度の品をご持参下さい。
- ・バザー：出品をお願いします。
- ・締切：12月2日(月)  
以降のキャンセルは参加費の全額をいただきます。
- ・定員：50名  
お断りの場合のみご連絡します。
- ・申し込み先：[nzs.jk@yahoo.co.jp](mailto:nzs.jk@yahoo.co.jp)  
Tel/Fax 06-6607-2112

## ■ 川瀬初代会長没後20年をふり返る

初代会長川瀬勇さんをご存知でない会員も増えた現在ではあるが、没後20年記念として、会報に川瀬さんを偲ぶ特集記事を組めばと提案した手前、私も以下のような思い出を綴ってみました。川瀬さんは戦前にNZで学生生活を経験されました。1970年の大阪万博を契機に、NZと日本の民間交流団体として当協会を創設され、その後約30年間の長きにわたり会長の任に当たられました(詳細は協会発行の追悼遺稿集)。今から20年前、最後は天の思し召しでしょうか、会長在任のまま、しかもクライストチャーチで亡くなりました。

まさにNZとの交流に一生を捧げられたと言っても過言ではありません。

翻って、私とNZとのつきあいは1984年秋から2年間、NZ政府の学術会議による招待研究員としてロトルアにある研究所に在籍してからです。1986年に帰国した当時、塚口にあ

る園田学園が日本オセアニア交流協会事業を活性化し始めた頃で、たまたま家内の実家と学園が近所だったこともあり、同協会に入ることになりました。なお同協会は現在休会中です。その繋がりから、川瀬さんの目に留まり、お声がかかったのでしょうか。帰国して多分翌年の1987年、川瀬会長からNZ生活についての講演とNZ協会への入会を依頼されたのが川瀬さんとの最初の出会いです。当時まだよく知りませんでした。NZ協会設立以来、会長は毎回手書きの会報を発行されていました。その熱心さには感心した記憶があります。その後の例会参加は、当時行事にクリスチャン色が強く、加えて私の職場が京都の上、子供も小さいことで、年1回程度だったし、参加してもお互い挨拶言葉程度で、特別親しくさせて頂いた記憶はありません。例外は、一度だけ阪神競馬場で開催されたエリザベス女王杯の招待券を頂き、VIP室に行けたときでした。(競馬場に行ったのは今もこれだけ)。稀に例会に参加した時、例えば一度だけ神戸磯上公園にあるKRACクラブハウスでのクリスマス例会に参加した時も、会長は言わば川瀬チルドレンとも言うべき多くのファンに囲まれておいででした。他地区のNZ協会は、姉妹都市交流の縁で発足したものが多く、協会における会長個人の匂いは全く無いのだが、川瀬会長の場合、戦前にNZに居られて、まさに1個人のNZへの思い入れから設立されたのが当NZ協会であり、その熱心さから多くの(大半は女性だが)川瀬チルドレンが産まれたと想像できます。その結果当時は会長の薫陶を受けた会員が大半でした。男性の川瀬チルドレンとしては、川瀬さんの紹介でNZに行かれた後、帰国されて園田学園の教員になられた田辺さん、また旅行業者としてのつきあいがあった呉橋さんがまず思い浮かびます。田辺さんは川瀬会長の後任と目された時もあったようだが、その後川瀬さんと行き違いがあったのか？早く脱会されていますが、他方呉橋さんは事務局長を長く勤められ、会長職もされています。一方川瀬チ

ルドレンでなく、独自に仕事の都合でNZに在住し、当時本協会で活躍されたのは医師であった薄さん、香料業界の塩田さんとアカデミックな仕事の私位でしょうか？(佐藤さんも居られたが、柳田さんは川瀬会長没後？に活躍されました)当時川瀬チルドレンに囲まれ、少なくとも私は、協会にあまりなじめない思いがあったと記憶しています。

会長は多才で、交流活動の傍ら、交響曲のようなものもしばしば作曲され、私は参加しませんでした。その演奏会が協会主催で開催されています。ただ残念なのは、それらの楽曲がその後演奏されたとは聞かないことです。能好きの豊臣秀吉は、彼自ら作能して演じたが、死後それらの演目は演じられたことがないのと同じなのかも知れません。想像するに、会長は、NZとの交流がいわば仕事のようなもので、協会の行事と共に、ジャパンフェスティバルをオークランドを中心に何度か開催されました。ただ知己だけで文化交流会をすると、どうしても各分野で一流の人ばかりで開催とはいきません。それで、誤った？作法や知識等がNZで広まる恐れもあり、参加を要請されたものの、私はあまり乗り気ではありませんでした。(実際、NZ在住時、日本人から柔道を習ったが、別の日本人の柔道と違うとか、種々の苦情を聞いたこともあり。また裏千家は誤った茶道が世界に広がるのを阻止するためとして、幾つかの海外支部を設けて海外活動は積極的です)。

川瀬さんの非常に熱心な交流活動は、言い過ぎにはなるのだが、NZ協会＝川瀬協会状態を産んでしまったきらいはあります。そのため、川瀬さん死後の会長人選や活動に影を落としたと言えるでしょう。ただ、私が川瀬さんと同じ状況に置かれればやはり同じことをしたでしょうし、協会の創設ならびに発展に尽力された初代会長としての川瀬さんの功績は極めて大きく、彼無くして、今のNZ協会は無かったでしょう。今後はその遺産としての協会の維持・発展を願うばかりです。(山内龍男)

#### \*川瀬勇初代会長略歴

1908年西宮生まれ、1931年日本人初めての留学生としてニュージーランド大学農学部・カンタベリー農科大学（クライストチャーチ）に学び1932年卒業、翌年川瀬牧草農業研究所設立、岐阜大学などで教鞭を取る、1952年日本ニュージーランド協会設立者の一人、1970年関西支部会長就任、1979年クイーン・サービス・オーダー叙勲、1999年8月クライストチャーチ・日本祭り開催後に現地にて急逝。

### ■ ハカとラグビーについて

ラグビーワールドカップが9月20日から始まり、ラグビーについていろいろ検索していたらハカとの関係について面白い記事に出会いましたのでご紹介します。



・オールブラックスが試合前に披露するハカについて一部から不公平ではないかとの声があります。短時間だが、相手チームはその間は肩を組み終わるのを待っていること。ハカを舞うことで気持ちを高め試合に入っていくことに対してです。しかし、ハカは対戦を受け入れた相手に対し敬意を表する意味もあることを知りました。サモア・トンガ・フィジーも同様な儀式を試合前に披露することもあります。1905年、ニュージーランドのイギリス遠征の際、初めてハカを披露し、その後慣習になりました。ソフトボール・サッカーのNZ代表チームもハカを披露することもあるそうです。日本スポーツマンシップ協会理

事・尚美学園大学准教授の江頭満正氏によれば「ハカは、対戦相手と敵対するものではなく、ゲームを始める準備のパフォーマンスだと解釈されているからです。ゲーム前にプレイヤーが円陣を組んで気持ちを一つにする、“やるぞ”と気合を入れる、こういった行為と同じ扱いになりました。逆に、対戦相手の準備を邪魔することは、マナーに反します。最高のコンディションでゲームに臨んでもらうのがスポーツマンシップです。現在では、ハカを踊っているときに、10メートル以内には近づかないことが暗黙の了解となり審判もハカを邪魔しないように警告するようになりました。

ハカは、対戦相手に向かって大きく舌を出す動作から始まります。他にも、喉から下に引かれる親指のジェスチャーが“喉の切り裂き”を暗示するものとして解釈され、論争を巻き起こしました。ハカの中で発している言葉も、戦いに向けて戦士を鼓舞する内容で、“たたきつぶせ”“切り刻め”などと解釈できる部分もあります。このような理由から、過去にも何度も、大会主催者や協会から警告を受けてきました。

2005年、ウェールズラグビー協会からハカのパフォーマンスを行わないように要請されましたが、オールブラックスは拒否し、代わりに試合前に更衣室でハカのパフォーマンスを行いました。

当時、キャプテンのリッチー・マッコーは「ハカはニュージーランドの文化とオールブラックスの遺産と一体であり、他のチームが不愉快に感じる場合には、小屋でハカをやるだけだ」と述べました。観客はハカがグランドで行われないことに恐怖反応を示し、スタジアムのスクリーンでハカの短い映像が流されました。

2006年には、アイルランドがニュージーランド遠征で行ったゲームでも、アイルランドがハカに否定的だったため、試験的にハカ



を行わない選択をニュージーランドラグビー協会が行っています。世界各国の多くのチームが、ハカに対して否定的です。しかし、ハカがラグビーの遺産の一部であるとの認識が広がったため、現在ではほとんどのチームが、10メートル以上離れて、終わるのを見守ることをマナーとして受け入れています。

対戦するチームによっては、ハカを無視する戦術を取ることもあります。オーストラリアのチームは、1996年のウェリントンでのテストマッチで、オールブラックスからかなり離れた場所でウォームアップを行いました。イタリアのチームは2007年のワールドカッププレマッチでハカを無視しました」。

(ヤフーニュースより)

今回のワールドカップが11月2日の決勝戦まで事故なく且つ盛況に終了することを願います。日本の活躍とニュージーランドの優勝を祈念します。

(石井久行)

## ■ アサヒビール吹田工場を見学して

昨年は、大雨の影響で延期しましたが、7月17日の暑い天気のもと見学会を開催しました。アサヒビールは国内8ヶ所に工場があり、吹田は1892年に設立されました。甲子園球場の4倍の敷地で、大瓶換算で年間7億7千万本のビールが製造されています。

近年、海外からの見学者も多く年間15万人が訪れています。山崎や余市のウイスキー蒸留所見学は有料ですが、ビール工場は無料が大半です。ビールはメソポタミアやエジプトで古くから飲まれていたそうです。日本では明治初期に横浜でビール造りが始まりました。原料は、麦芽・ホップ・水ですが、水以外は海外からも輸入しています。吹田のビールは米国・ロシア・韓国等へも輸出しています。

最初に125席ある劇場でビデオで説明を受けた後、2階から見学ルートに沿って工場内の廊下を歩きました。作業員の姿はほとんどなく、

説明スポットでは麦芽・ホップを手にとることができ、試食もできました。最後に試飲会場で美味しいビールの飲み方の説明を受けた3種の出来立ての美味しいビールをいただきました。

参加者(三浦治郎・林園子・林弘子・山田輝子

山下誠二・山下明・伊藤美登利・石井久行)



(ビール試飲風景)

## ◎ 近隣のお勧め名所

### ■ 大山崎山荘美術館

アサヒビール所有の欧風山荘を1996年に美術館として安藤忠雄が再建。モネ・バーナードリーチ・濱田庄司などの作品を常設展示。

12月1日まで東山魁夷のスケッチ(欧州の古き町)の特別展が開催中。

電話：075-957-3123

### ■ 聴竹居

藤井厚二(元竹中工務店・京都大学)が自宅として1926年に天王山中腹に竣工。竹林の風の音を聴きながら静かに暮らすための工夫が各所にみられる。

数寄屋造りと欧米風が融和した建物。

ボランティアが運営。

メール：[chouchikukyo@gmail.com](mailto:chouchikukyo@gmail.com)

・2ヶ所ともJR山崎駅が最寄り

## ■ 臨時例会(縁日会)のご報告

8月30日に中央電気倶楽部の夏の恒例行事に合流しました。会場の大ホールに設けられた

屋台にはお寿司・ピザ・焼き鳥・焼きそば・そうめん等盛りだくさんのお料理とビール・ワイン・焼酎・日本酒が用意されていました。舞台では懐かしい「バナナのたたき売り」もありました。バナナは明治36年ごろに台湾から神戸に送られてきました。神戸に届く前に門司辺りで傷みが出たので、早く捌くために陸揚げしてバナナの叩き売りが始まったそうです。門司港にはバナナのたたき売り発祥の地の牌が建っています。別室では射的・パターゴルフコーナーもあり懐かしそうに楽しむ姿もありました。

参加者（松沼清司・山田博子・山下明・井上佳久  
石井久行・堀英彦・藤本昌則・尾崎彰・林進  
アンセルヘスス・林晏那）



(会場風景)

## ■ ラグビーワールドカップ 2019 日本大会



9月20日から始まりましたが、NZは南アフリカ・カナダ・ナミビアに勝ち下馬評通りの活躍です。油断はできませんが、11月2日に横浜で「ウェブ・エリス杯」を手にするのを期待しましょう。日本もベスト8に入ることを願いましょう。



(ニュージーランド・カナダ戦)

## ■ Do you know NZeTA・IVL?

皆さん既にご存じと思いますが、10月1日からニュージーランドへ観光旅行する方にも一種のビザ的な電子渡航承認(NZeTA)と国際観光税(IVL)が必要になりました。気軽な旅行から一歩退いた感じです。日本国籍の人は観光ビザ免除でしたが、近年の国際社会事情を考えると仕方ないでしょうか。費用は電子申請をすればそれぞれ9ドルと35ドルです。業者依頼は高いのでご自分でパソコン利用申請をお勧めします。

詳細はNZ外務省ホームページなどへ。

[www.immigration.govt.nz](http://www.immigration.govt.nz)

## ■ 年会費について

今期末納の会員の方には今回の会報に請求書を同封させていただきましたので10月末までに振り込みをお願いします

## ■ ご寄稿のお願い

NZに関する情報・旅行記等をお気軽にお書き下さい。次号の締め切りは、来年2月末です。

- 来年、当協会は創立50周年を迎えます。記念行事等のご提案をお待ちしております。又、役員交代年でもあります。2月末までに自薦・他薦を問いませんので事務局までご連絡下さい。4月の総会で選出する予定です。